

入域観光客統計概況

- 平成17年3月分 -

平成17年4月26日

沖縄県観光商工部

3月の入域観光客数は、506,700人。前年同月比は、+4.2% (+20,200人)で、同月としては、はじめて50万人を突破し過去最高を記録した。

1月～3月までの入域観光客数は、1,320,400人。前年同期比は+1.4% (+18,400人)となり、過去最高を記録した。

1. 国内外別入域状況

国内：499,800人 前年同月比 + 4.0% (+19,400人)
海外：6,900人 前年同月比 + 13.1% (+800人)

2. 主要航路別入域状況

東京：221,600人 前年同月比 + 4.9% (+10,300人) 構成比 43.7%
阪神：93,500人 前年同月比 + 0.4% (+400人) 構成比 18.5%
福岡：64,500人 前年同月比 + 2.4% (+1,500人) 構成比 12.7%
名古屋：48,700人 前年同月比 + 10.4% (+4,600人) 構成比 9.6%
札幌：12,200人 前年同月比 + 82.1% (+5,500人) 構成比 2.4%

3. 概況と見通し

3月の入域観光客数の概況としては、国内客については、航空機材の大型化（札幌路線）や下旬の3連休を中心に各エージェントが積極的に販促活動を実施したこと（東京路線）、ショッピング観光が新たな客層の開発に繋がりとつあることなどにより前年を上回る結果となった。

外国客については、クルーズ船の運航が再開されたことなどから昨年を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、4月上旬の航空輸送実績が好調に推移していること、団体旅行の予約が昨年を上回っていること、ショッピング観光を組み込んだ商品販売の本格化が期待されることから好調に推移することが見込まれる。

外国客については、クルーズ船の運航再開や情報誌への沖縄特集の掲載による需要の掘り起こしなどにより前年を上回るものと思われる。

担当：観光企画課 城間

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

3月は、後半の3連休を中心に各エージェントが積極的に販促活動を展開したことにより入域観光客が増加した。

4月は、大型コンベンションの開催や大型団体旅行が昨年に比べ伸びていることもあり、各エージェントの予約状況は昨年を上回っている。

大阪事務所(阪神地区)

3月は、国内旅行商品(パッケージツアー)が前年比120%台で伸びたことが入域観光客の増につながった。

4月以降は、個人消費の緩やかな回復も望まれることから順調に推移するものと思われる。

福岡事務所(九州・山口地区)

3月は、愛知博の影響により団体旅行が落ち込んだものの、個人型商品が好調に推移し前年を上回った。

4月の予約状況は、個人型商品は先月に引き続き好調さを持続しているが、愛知博への送客が本格化するため、前年増の確保は予断を許さない状況にある。

名古屋事務所(名古屋地区)

3月は、セントレア空港開港に伴い沖縄路線が増便されたことが入域観光客の増加につながった。周遊型商品、個人型商品とも順調に推移した。

4月以降については、万博やセントレア空港見学の反動効果もあり国内旅行はどの方面も苦戦している中、沖縄方面は例年並みになる見込み。

北海道観光・物産情報センター(北海道地区)

3月は、JAL機材が大型化されたことや「北海道日本ハムファイターズ」の名護キャンプがテレビ、新聞等で頻繁に報道され沖縄に対する関心が高まったことが入域観光客の大幅な増につながったと思われる。

大手旅行代理店の4月～6月の沖縄への集客状況は人員ベースで前年同期比120%となっており順調に推移している。

2. 海外

台北事務所(台湾地区)

3月は、台北-沖縄-上海のトランジット客の増加による座席の占有などにより、昨年比で若干の減少となった。

4月以降は、クルーズ船の運航再開や情報誌への沖縄特集の掲載による需要の掘り起こしなどにより引き続き増加が見込まれる。

韓国事務所(韓国地区)

3月は、日韓修好40周年記念の民間交流でソウル市国楽管弦楽団が沖縄公演を実施したことなどにより前年度を上回った。

4月以降も企画商品の集客が順調に推移している。